

中学校 道徳 部会

部会長名 大任中学校 校長 栗林秀幸
実践者名 香春中学校 教諭 山本秀信

1 研究主題

豊かな心を育む道徳教育の研究
～道徳の時間における「私たちの道徳」の活用を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

近年、家庭や地域社会の教育機能が揺らぎ、社会全体のモラルが低下しており、生徒の自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であるという問題点が指摘されている。また、あふれる情報の中で、正しい情報の取捨選択が困難になってきている。学校における道徳教育は、豊かな心を育み、人間としての生き方の自覚を促し、道徳性を育成することをねらいとしている。そこで、社会の変化に主体的に対応して生きる人間を育成するためには、道徳教育を推進することが重要であると考えている。

(2) 生徒の実態から

本校の生徒は従順であり、素直に与えられた課題に取り組むことができる。道徳性検査の結果によると、自分の学校や学級・町や日本などの所属するものに対して大切に思ったり、自慢に思ったりする割合は高い。しかし、一方で自分の良さを認識したり、自分の将来に対する夢や理想を描いたりして生活していると答えた生徒の割合が低く、自尊感情の向上が課題であると考えている。本校の教育目標「学び合い、鍛え合い、共に伸びゆく生徒の育成」の達成のためにも、道徳教育の充実は大切であると考えている。また、中学校学習指導要領道徳編には「中学校の段階は、他者との連携を深めると同時に主体的な自我の確立を求め、自己の生き方について関心が高まる時期であり、人間性についての理解を深め、主体的によりよい人生を築いていくための基礎を学ぶ学習が重要となる」とある。周囲と共に学び合い、鍛え合って、共に成長していく生徒の育成が大切である。

(3) 「私たちの道徳」の活用の実態から

平成26年、「心のノート」を全面改訂した「私たちの道徳」が文部科学省より出され、学習指導要領（道徳編）においても「私たちの道徳」の適切な活用について示されている。このことから「私たちの道徳」のより一層の活用が望まれていることがうかがえる。しかし、教員自身はその良さを認識できておらず、「私たちの道徳」が十分に活用されているとは言い難い。そこで、生徒が道徳的価値の内面的な自覚や自己の生き方についての考えを深めるため、より充実した道徳の時間にする必要がある。従って、道徳の時間と結びつけた「私たちの道徳」の効果的な活用を探り、道徳教育の充実を図ることができるような事例をあげていきたいと考え、本主題を設定した。

3 主題の意味

(1) 豊かな心を育むとは

「自分を大切にし、他と共に成長しながら自己実現を目指す心を育てる」ことである。自他を尊重し、高め合っていきたいという思いがしっかりと心の中にあるとき、その人の心は豊かであると言える。そして、その豊かな心は単に心の中の思いにとどまっているのではなく、積極的に行動として表されたり、無意識に行動となって表れたりしてくる。自分のよさを発揮し、自己実現を目指して生きる中で、その人のもつ豊かな心が行動となって表れてくるのであり、より豊かな心をはぐくむべく生きていくことがその人の自己実現へとつながっていくと考える。

(2) 「私たちの道徳」の活用を通してとは

道徳の時間に活かす教材は、生徒が道徳的価値の自覚を深めていくための手掛かりとして、大きな意味を持っている。そのため、生徒が内面的な自覚を深める内容をわかりやすく表し、道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるものとして作成された「私たちの道徳」を道徳の授業で活用していくということである。

4 研究の目標

「私たちの道徳」を活用することを通して、自分を大切にし、他と共に成長しながら自己実現を目指す生徒を育成する手だてを明らかにする。

5 研究仮説

次の手立てを工夫しながら、「私たちの道徳」の活用を計画的に進めていけば、自分を大切にし、他と共に成長しながら自己実現を目指す心が育つ手がかりになるだろう。

- (1) 道徳教育全体計画や年間指導計画における「私たちの道徳」の位置付け
- (2) 道徳の時間における「私たちの道徳」の効果的な活用方法

6 研究の方法

(1) 「私たちの道徳」の活用のしかたの探求

○道徳の時間における効果的な活用方法を探る。

①導入の興味付け

(主題への関心の喚起 ex イラスト 写真 問題提起文)

②中心資料

(理解を深める 経験の想起 ex 記述の振り返り 詩 作文 絵 写真)

③中心資料の補助資料

(話し合いの参考資料 新たな価値、気付きにくい考えに気付く手掛かり)

④体験の交流

(自覚を深化 ex 直接記入、内容の交流)

⑤終末の考えを整理する手助け

(価値や考えの深化 学習内容の明確化する ex メッセージ 詩 名言)

⑥事前や事後の関連づけ

(学習・日常生活につながる問いかけ・投げかけ 発展的な投げかけ)

(2) 活用の効果の検証

- 検証授業で検証する視点を明らかにし、その変容を分析し活用の効果を探る。
視点①導入・展開・終末のそれぞれにおいて活用した場合の効果
 - ②生徒の記述の変容
 - ③話し合い活動や役割演技などでの発言
 - ④年度当初と年度末における「道徳性検査」の数値の変容
- 文献研究を行う。
 - ・道徳の時間における「私たちの道徳」の効果的な使い方について探る。
 - ・道徳教育全体計画や年間指導計画への「私たちの道徳」の効果的位置付けについて探る。
- 生徒の実態調査を行う
 - ・学年全体の実態を把握するための調査
 - ・授業実践を通して、生徒の意識の変化を把握するための調査
 - ・学年全体の実践後の変容を把握するための調査
- 本校における道徳教育全体計画や、年間指導計画を見直しへの「私たちの道徳」を位置付ける。
- 実践研究を行う。
 - ・道徳の時間で「私たちの道徳」を活用した実践を行う。

7 研究の実際

(1) 資料名 「言葉の向こうに」(出典：私たちの道徳 中学校)

(2) 主 題 寛容の心 内容項目 2－(5)

(3) ねらい

主人公のインターネット上でのやりとり、忠告を受け、相手の考えを尊重することの大切さに気づいた主人公の姿を通して、さまざまな意見や考えがあること、互いの考えや立場を尊重し合うことの大切さを理解し、寛容の心を持つための道徳的心情を高める。

(4) 本時の展開

学習活動	予想される反応	指導上の留意点	時
○インターネット上でのやりとりについて思い起こす。	・ある ない 携帯がない	・資料の内容を理解しやすくするために、実体験を問う。	2
ラインやツイッター、ネットに書き込んだことはありますか。			
○資料を読む		・資料の内容を理解させるため	5

<p>○ネット上の中傷に反論する主人公の気持ちを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな選手の悪口にむかつく ・A選手のためにも負けれない ・相手もけんか腰だから負けれない 	<p>に、教師が資料を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手との意見の違いから、怒りにまかせて行動するのでなく、互いに尊重することに方向を向けるための発問。 ・様々な意見があることを可視化するために、何名かの生徒に発表させ、板書する。 	<p>3</p>
<p>反論の言葉が段々とエスカレートしていった時の私はどんな気持ちだったのだろう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・自分のこととして考えさせるために、「あなたたちはどうですか?」「こんな経験ありませんか?」と問う。 ・発する言葉には受け取る相手がいるということを気づかせるための発問。 ・様々な意見があることを可視化するために、何名かの生徒に発表させ、板書する。 ・意見が書けない生徒には、「自分がされたらどんな気持ちになりますか?」と問う。 	<p>12</p>
<p>○忠告を受けた主人公の気持ちを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も悪口を書く人と同じだ。 ・自分の書き込みで傷ついたかも知れない。 ・顔の見えない相手でも、言葉を考えないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値を深めるための発問。 	<p>18</p>
<p>「あなたが書いた言葉の向こうにいる人々の顔を思い浮かべてみて。」と言われた時、私はどんな気持ちだっただろう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・意見の出せない生徒への支援として、「言葉の向こうにという題になったのはなんでなのか」と問い、考えを出しやすくさせる。 	
<p>○一連のやりとりを通して、主人公が気づいたことについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他人の意見にも耳を傾けること ・色々な意見があるということ ・お互いの意見を尊重し合うこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を共有し、考えを深めるために、班で交流させる。その際、付箋を配り、他者の意見に付け加えのある意見や共感した意見に貼らせる。 	
<p>私が発見した「すごいこと」とはどんなことだと思いますか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視を行い、交流を促す。 ・付箋が多かった意見の生徒、教師の指名した生徒に発表させ、板書する。 	
<p>・個人で考える ↓</p>			

・班で交流する。			
○本時で自分が気づいたこと、これからどのように過ごしていきたいのかを考え、記入する。		・自分の感じたこと、意見を明確にするために、学習プリントに記入させる。 ・意見を共有するために、何名かの生徒に発表させる。	5
今日の授業で感じたことはどんなことですか。これからどのように過ごしていきたいですか。			

8 研究のまとめ

(1) 『道徳教育全体計画や年間指導計画における「私たちの道徳」の位置付け』について
道徳教育全体計画に「私たちの道徳」を位置づけることはできた。また、年間指導計画には、中学校1年生では13の内容項目で、中学校2年生では6の内容項目で、中学校3年生では8の内容項目で「私たちの道徳」を位置づけている。これを確実に実施できるように、道徳教育推進教師が中心となって取り組んでいくことが大切である。

(2) 『道徳の時間における「私たちの道徳」の効果的な活用方法』について

「私たちの道徳」は、中学校3年間を通して活用するようになっている。しかも、各内容項目ごとに、読み物資料だけでなく、コラムやデータ、補助資料やワークシートなど様々な資料が豊富に記載されている。したがって、生徒の発達段階を踏まえ、適切に活用することで大きな効果が期待できる。

9 成果と今後の課題

(1) 成果

- ①道徳の時間や教育活動全体（各教科、特別活動、総合的な学習の時間など）で「私たちの道徳」を活用することで、「生徒は問題意識を持つ、自分の考えを明確化する、知らなかった考え方にふれる、よりより生き方を考える」など、より深く自分と向き合っていることができるなど、道徳の時間が活性化される。アンケート調査では、『道徳の時間で「私たちの道徳」を使うことが効果的である』と回答した生徒の割合は84.5%あり、「私たちの道徳」が道徳の時間に深い関わりをもつことが分かった。
- ②中心発問の場面で、個人で考えさせた上で班での意見交流の場を設定した。その際、付箋を使ってのワークショップ型の交流活動は、言語活動が活発になり「考え、議論する道徳」への手法の1つとして有効であると感じた。

(2) 今後の課題

- ①ねらいを焦点化する必要がある。ねらいに迫るためには「寛容の心」を自分なりの言葉で解釈する必要がある。つまり、生徒がどのようなことを書いたり、発言したりするとねらいが達成できたことになるのかを明確にすることである。例えば、「他の意見を受け入れる」、「広い心で接する」、「相手の立場で考える」などが明確になれば、ねらいに迫る授業ができると考える。

②道徳的価値の内面的な自覚を図る必要がある。生徒から「広い心で接する」という意見が出されたが、それを単なる行動の目標にしてしまった。「広い心ってどういうこと？」と切り返しの発問により、行為を支える道徳的価値に向かう心に迫りたかった。さらに、全体の生徒にも、「広い心ってみんなはどう思う？」と問いかけ、生徒同士の横の意見（考え、議論する道徳）をふくらませたかった。

①価値の主體的な自覚（価値の一般化）を図る必要がある。班での意見交流の後、すぐに、「これからどのように過ごしていくのか」を考えさせてしまった。ここで、いきなりどうするのかを問うたため、「行為の決意表明」になってしまった。やはり、展開後段で資料から離れ、「自分の意見を分かってもらえたらどんな気持ちになる」と問い、「嬉しい」、「安心する」、「気持ちが晴れる」等を引き出した上で、そんな気持ちになった経験があるよねと、自分の経験と重ねて考えさせる。この展開後段を丁寧に行うことで、「互いの意見を尊重することで晴れ晴れとした気持ちになれる」等、その行為を支える心に迫ることができると思う。

◎ 参考文献

『中学校学習指導要領解説－道徳編－』文部科学省（平成20年）

『道徳教育実践ハンドブック（再改訂版）』福岡県教育委員会（平成26年）

『私たちの道徳』文部科学省（平成26年）